

かさ

太田大八 作・絵



文研出版 1975年 951円

あめふりの日、女の子が大きなかさを小脇に抱え、お父さんをおむかえに行きます。すれ違う人たち、町の風景、すべてが墨1色で描かれた世界で、女の子のさすかさの赤が、とても鮮やかに目を引きます。こまやかな町の様子、女の子の表情、お父さんと並んで帰る帰り道など、モノトーンの色づかいでありながら、あたたかさを感じさせる、文字のない絵本です。

かさじぞう瀬田貞二 再話
赤羽末吉 画

福音館書店 1966年 743円

貧乏なじいさんとばあさんが、正月の餅を買うため、かさをこしらえます。しかし、かさはひとつも売れません。仕方なくうちに帰ろうとしていたじいさんは、雪の中に立つじぞうさまを見つけ、そのかさをかぶせてあげるのですが…。心やさしいじいさんとばあさんが、じぞうさまのお返しで宝物を手に入れるという、代表的な日本の昔話です。にじんだ墨の風合いが、味わい深いあたたかな雰囲気を感じさせます。

かにむかしー日本むかしばなしー木下順二 文
清水崑 絵

岩波書店 1976年 1600円

かのに拾った柿の種は、やがて木となり、その実は真っ赤に熟れました。木登りのできないかんに代わり、柿の木に登ったさるは、実を独り占めしたばかりか、ほうり投げた青柿でかんにをつぶしてしまいます。子かんにたちは、母がにのため、仇討ちをしようとさるのすみかへでかけますが…。方言の響きと、墨を使って描かれた迫力のある絵が、おなじみのさるかに合戦のお話をいきいきと描いています。